

PRESS RELEASE

報道関係者 各位



八天堂が農業参入「八天堂ぶどう園」経営始動 宗越福祉会と連携し竹原市で農福連携モデルを構築

株式会社八天堂（代表取締役：森光孝雅）、社会福祉法人宗越福祉会（理事長：西川洋美）は、竹原市小梨町にあるぶどう園（呼称：八天堂ぶどう園、住所：竹原市小梨町北谷平 1833-2、1827-8、面積：8,129㎡）にて、生活困窮者就労訓練事業を開始した。ぶどう園の管理、運営、収穫物の販売を八天堂が担当し、生活困窮者の自立支援を宗越福祉会が担当する。

【本件のポイント】

- 生活困窮者の自立支援を目的とした全国に先駆けた農福連携型就労訓練事業モデル
- 後継者不在の農園を企業が承継するマッチングモデル
- ぶどう園で収穫した果実に付加価値をつけて八天堂の販路で販売する、農福連携のサステナブルモデル

竹原市では、ぶどう栽培に歴史があり、市内に 29 農家が従事しており、9.6ha のぶどう園が存在している。2020 年にオーナー不在となったぶどう園の活用を模索している中で、八天堂、宗越福祉会より生活困窮者の就労訓練を中心とした農福連携事業について提案を受け現所有者とのマッチングを行い相互理解のもと 2021 年より運営が開始された。



農福連携型就労訓練事業を行うぶどう農園

約 1 年間放置されたぶどう園（写真下左）を八天堂並びに宗越福祉会が 3 ヶ月で整備し、4 月から本格的に就労訓練事業を開始した。（写真下右）ぶどう園での作業を通じて社会性の向上を目指すと同時に、閑散期には宗越福祉会が運営する施設での就労を予定し対象者の収入の安定を図る。将来的には経験を活かし農業事業への従事や、介護福祉士の資格を取得し福祉施設へ就職で生活の自立を目指している。

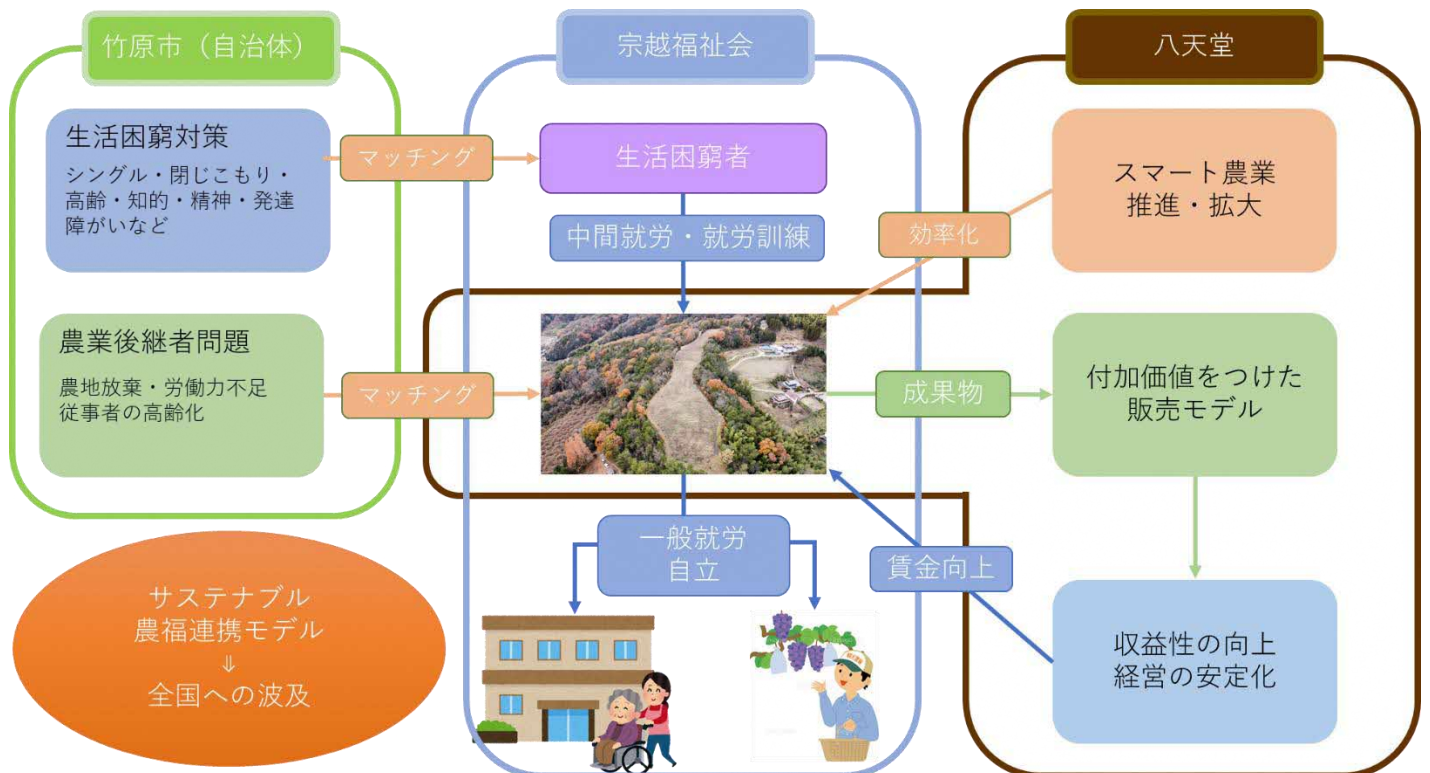


剪定前のぶどうの木



剪定後のぶどうの木

農福連携は収益性が低く広がりが限定的であったが、八天堂は、スマート機器の導入で効率化を図り収益性を高めると共に収穫したぶどうを独自の加工技術を活用して付加価値をつけ、広島空港前の八天堂ビレッジやその他販路を生かして販売し、ぶどう園単体で成り立つサステナブルな農福連携事業モデルを目指している。



そこで、八天堂並びに宗越福祉会は地域での営農を開始するに際し、地元住民等に向けた事業説明会並びに現地案内会を予定している。

場 所	小梨地域交流センター 広島県竹原市小梨町10381-1
日 程	令和3年4月26日(月) 10:00～ 事業説明 11:00～ 現地案内

※取材にお越しになられる際は下記八天堂林まで連絡をお願いします。

■問い合わせ先

〔八天堂に関すること〕

株式会社八天堂 (担当: 林) TEL:0848-62-2645 携帯電話: 080-1907-9881

〔宗越福祉会に関すること〕

社会福祉法人宗越福祉会 (担当: 伊藤) TEL:0846-25-1900 携帯電話: 090-5378-2095

〔竹原市に関すること〕

竹原市産業振興課 (担当: 木原) TEL:0846-22-7745